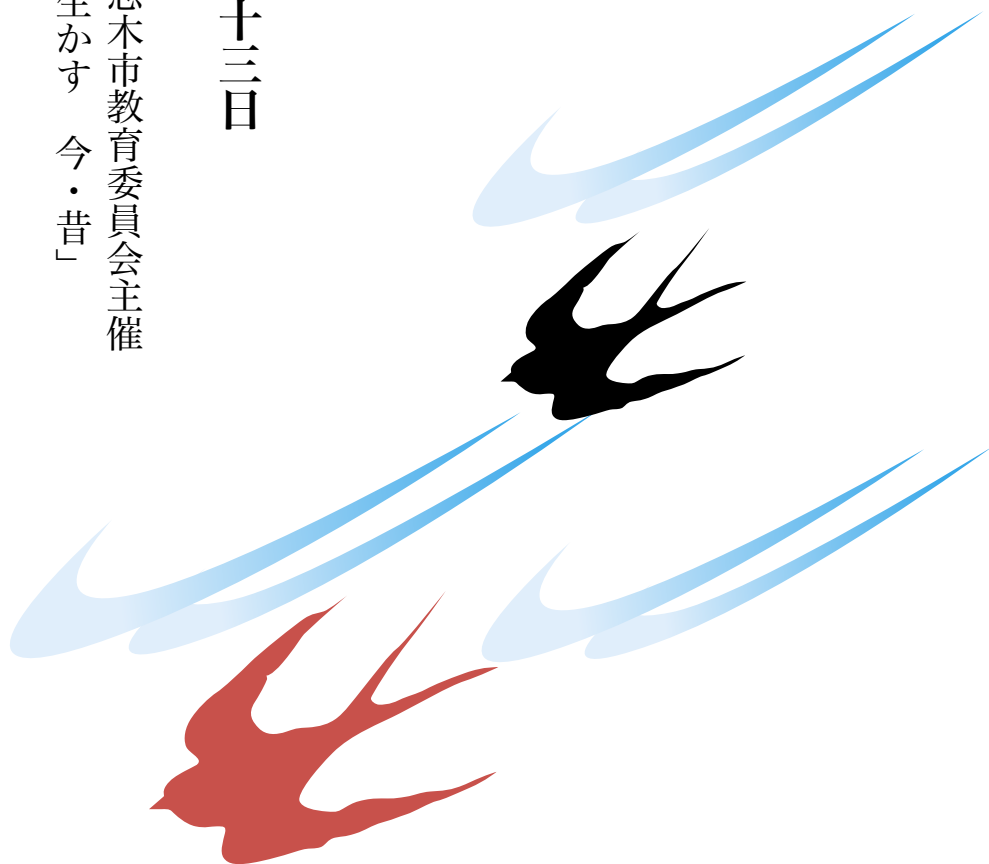


下宗岡の文化財を 訪ねて

と き…平成二十四年五月十三日

「志木のまち案内人の会」・志木市教育委員会主催
テーマ「水と生きる 水を生かす 今・昔」





しも ひかわじんじや 下ノ氷川神社

観応^{かんのう}二年（一三五二）九月に上宗岡の氷川神社（上ノ氷川神社）を分祀したものとされています。

その時に、上ノ氷川神社にあった茶臼を二つに分け、上石に「観応二年」の年暦を刻んで神殿の床下に埋め、真上にあたる社殿内に幣帛^{へいはく}の御神体を祀ったといわれており、このため多くの社寺が南面または東面しているのに対し、当社は北面して上ノ氷川神社と向き合い、氏子の村人を守るとされています。

昭和六十一年秋に新しい装いに改築された社殿の中には、江戸期のものを含む数多くの絵馬^{えま}が收藏されています。

平成六年二月二十五日

志木市教育委員会







贈 おせ八



遷宮式雅児参列記念



贈 篠 亨 美 館



奉納 昭和五十五年夏祭 細田軍港



永川神社



箆かご 寫しま 門もん 樋び

江戸時代の絵図にも記され、『武蔵国郡村誌』（明治八年刊）には「かごしまいりひ籠嶋扒樋」と記載されています。明治二十八年（一八九五）五月に、木製から、石積みのアーチ型樋門に造り替えられて、「箆寫門樋」と名付けられました。新河岸川の旧堤防に造られており、通常は用水の落とし水などを川へ流し、川の水かさが増すと観音扉が閉まり、堤内への浸水を防いでいました。

箆寫門樋は、当時の入間郡宗岡村が埼玉県の技術指導と県税の補助を得て建設したもので、下流側には、現在はスライドゲートが取り付けられています。当初は木製の観音開きの戸であり、戸の上の石に「箆寫門樋」と刻まれています。アーチの石組みは、五角形の切石積みであり、西洋の煉瓦・石造り建築に顕著な方式で、日本古来のアーチとは異なっています。

石造りのアーチ型樋門としては県内唯一のものです。

平成二十四年二月

志木市教育委員会





白井武左衛門供養塔

白井武左衛門は江戸時代前期に宗岡地区を知行していた旗本岡部氏の家臣で、彼の名を不朽なものにしたのは新河岸川に「いろは樋」を架設したことによる。

武左衛門は武蔵野を延々二〇数キロ流れてくる野火止用水の流末が新河岸川に空しく落ちていくのに着目し、これを水に難渋していた宗岡地区に灌漑用水として引くことにより農業生産力の増大をはかるうとした。そして、当時、宗岡地区の一部を領有していた川越藩主松平信綱の許しを得た上、寛文二年（一六六二）に新河岸川の上に懸樋（通称いろは樋）を架け、野火止用水を宗岡側に導いたので、村内の水田は十分潤うようになり収穫量も大幅に増大した。住民がこの懸樋から受けた恩恵は計りしれないほどに大きかっただけに、いろは樋を作ってくれた白井氏への感謝の念は以後三〇〇年にわたり薄れることがなかった。その現れが文化一〇年（一八一三）に建てられたこの供養塔である。

昭和五十七年七月一日

志水市教育委員会

*文化財を大切にしましょう。







